



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 日本ルツボ株式会社  
 コード番号 5355 URL <https://www.rutsubo.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大久保 正志

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経理部長 (氏名) 広野 玲緒奈

TEL 03-3443-5551

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,201	0.2	70	31.1	92	4.8	46	30.2
2022年3月期第1四半期	2,205	19.9	101		96		66	276.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 41百万円 (52.4%) 2022年3月期第1四半期 86百万円 (149.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	6.95	
2022年3月期第1四半期	9.96	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	11,021	5,159	46.8	767.06
2022年3月期	11,077	5,186	46.8	771.08

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 5,159百万円 2022年3月期 5,186百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		10.00	10.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		11.00	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	9,200	6.1	320	25.2	370	17.6	260	22.5	38.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	7,045,200 株	2022年3月期	7,045,200 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	319,455 株	2022年3月期	319,455 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	6,725,745 株	2022年3月期1Q	6,725,765 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(企業結合等関係) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ情勢や新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなかで、経営効率の改善等により企業収益は改善基調となったものの、企業の業況判断に足踏みが見られるなど、一進一退の状況が続きました。先行きについては、各種の政策効果もあって景気が持ち直していくことが期待されますが、原材料価格の更なる高騰や急激な円安をはじめとする為替変動リスクなどを十分に注視することが必要な状況であります。

当社グループを取り巻く関連業界におきましても、主要取引先である自動車関連産業は、半導体及び部品の供給制約が解消せず、販売台数及び生産台数の前年同月比大幅な減少が継続しております。

鉄鋼産業は、建築部門及び産業機械部門からの鉄鋼需要は回復傾向にありますが、自動車部門からの需要が低調であることの影響を受けており、下振れリスクに注意が必要です。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22億1百万円（前年同四半期比0.2%減）となりました。しかし利益面では、営業利益が7千万円（前年同四半期比31.1%減）、経常利益が9千2百万円（前年同四半期比4.8%減）、また親会社株主に帰属する四半期純利益は4千6百万円（前年同四半期比30.2%減）と厳しい結果となりました。

## ①事業の分野別業績

casting事業は、主力製品の販売増加により、売上高11億1千4百万円（売上高比率50.6%）と前年同四半期比8.9%増加いたしました。

鉄鋼事業は、当社がメンテナンスを担当していた高炉の閉鎖の影響が大きく、売上高1億7千8百万円（売上高比率8.1%）と前年同四半期比32.7%減少いたしました。

工業炉事業は、大型案件を順調に成約・進捗できたことなどにより、売上高1億8千9百万円（売上高比率8.6%）と前年同四半期比32.0%増加いたしました。

環境・工事業業は、民間焼却設備を中心に安定した受注を確保し、売上高5億1千万円（売上高比率23.2%）と前年同四半期比10.6%増加いたしました。

不動産事業は、テナントからの賃料の改訂を主因に、売上高9千9百万円（売上高比率4.5%）と前年同四半期比5.4%減少しましたが、引き続き安定的に収益を計上しております。

塗料循環装置事業は、新型コロナウイルス感染症の影響による納期変更等の影響を受け、売上高1億8百万円（売上高比率5.0%）と前年同四半期比47.1%減少いたしました。

## ②事業の種類別セグメントの業績

種類別セグメントの売上高は、耐火物事業の売上高は13億2千万円（売上高比率59.9%）と前年同四半期比3.4%増加し、営業利益は1億2千6百万円となりました。エンジニアリング事業の売上高は6億7千3百万円（売上高比率30.6%）と前年同四半期比9.0%増加し、営業利益は7千4百万円となりました。不動産事業の売上高は9千9百万円（売上高比率4.5%）と前年同四半期比5.4%減少し、営業利益は6千万円となりました。その他事業の売上高は、1億8百万円（売上高比率5.0%）と前年同四半期比47.1%減少し、営業損失は1千8百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末比8千4百万円（1.3%）増加し、66億5千9百万円となりました。主として、原料価格高騰に伴う棚卸資産の単価改訂による増加です。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末比1億4千万円（3.1%）減少し、43億6千1百万円となりました。主として、製造設備の減価償却による減少です。

これにより、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比5千5百万円（0.5%）減少し、110億2千1百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末比9千5百万円（2.8%）増加し、34億7千8百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末比1億2千4百万円（5.0%）減少し、23億8千4百万円となりました。主として、長期借入金の減少によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末比2千7百万円（0.5%）減少し、51億5千9百万円となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は46.8%（前連結会計年度末は46.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。  
なお、業績予想を見直す必要が生じた場合は、速やかに開示する予定です。